

ライフサイエンス分野における重点領域に関する意見

2001年5月23日
(社)経済団体連合会
産業技術委員会
バイオテクノロジー部会

1. ライフサイエンス分野における総合科学技術会議の役割

- (1) わが国の強みを生かしたバイオ産業の健全な発展は、国家的に取り組むべき課題である。その推進のためには、大学等の基礎研究の充実(知の創造)、基礎研究を産業化に結びつけるプロセス(知の活用)、新しい知識に対する国民の理解と市場の受容性の向上(知の理解)を、同時並行的に大胆に進めることが重要である。
- (2) 総合科学技術会議は、上記視点を踏まえた推進戦略を策定するとともに、ライフサイエンス関連施策を一元的に展開させるべく、指導力を発揮すべきである。また、関係省庁は、総合科学技術会議が策定した戦略の下で、縦割り行政の弊害を排すべく、連携して重点的な資源配分を行うべきである。

2. ライフサイエンス分野における重点領域について

- (1) 産業化による経済的な成長が期待でき、国際競争力を持てる領域に重点化すべきである。また、米欧との競合の激しい研究分野では、短期的なテーマだけでなく、中・長期のテーマにおいても思い切った重点化が必要である。
- (2) 新しい産業の創生が期待される分野としては、国民的関心事である生活習慣病など5大疾患の治療にかかわるヒトゲノムの分野のみならず、環境への影響を小さくするグリーンケミストリーなど微生物利用技術の分野、病気の予防、健康の維持増進を目的とした機能性食品の分野も重要である。

3. 基礎研究から産業化に至るまでの環境整備について

- (1) 現在、わが国の産業が優位性を持つ微生物利用や機能性食品分野において、欧米に対抗してその優位性を維持、強化するためには、関連する学問分野の新設、強化、体系化とともに異分野の融合協力が必要であり、これらに関連する大学等への資源配分を充実すべきである。また、バイオ分野の新しい発展を生み出すべく、ナノとバイオの融合領域(ナノバイオ)についての取り組み強化も必要である。
- (2) 研究者が研究に注力できるように研究面以外の支援を含めて研究支援者の充実に目をつけるべきである。

- (3) ライフサイエンス分野における産業競争力の強化のためには、世界トップレベルの研究を行う大学が必要であり、大学における競争原理の導入、世界第一線の研究者による評価を行う透明なシステムの構築が是非とも必要である。また、国立研究所においては、国際競争で勝てる、あるいはわが国の産業競争力の基盤となる研究分野に特化することが必要である。
- (4) 大学・国立研究所等において、基礎研究の成果の実用化及び産業化に直結した基礎研究を戦略的に計画するため、人材の流動化を進めるとともに、コーディネーター的人材を育成すべきである。また、国立研究所においては、ベンチャー企業の設立、育成を支援する機能を分担すべきである。
- (5) 国民の健康と安全を確保すると共に、遺伝子組換え技術等、新技術に対する国民の理解を促進するために、国立研究所等での安全性に関する研究を充実し、技術開発の段階から国民に情報をわかりやすく伝えることが必要である。

以上